

学習ポイント 1

文脈と語のまとまりを手掛かりに、正しく読む

漢字の読みは、一字ずつ暗記するだけでなく、言葉の意味や前後の文と結び付けると確かになります。身近な語から、説明文で使う抽象的な語へ進み、音読み・訓読み・送り仮名を確認しましょう。

目標 語の意味と読みを結び付ける／文中の語をまとまりで読む／仮名遣いを正しく書く

1 まず文全体を読んで、語をつかむ

下線の漢字だけを見る前に、誰が何をしている文なのかを確かめます。知っている語の意味を文に当てはめると、読みの見当がつきます。読みが分かった後も、意味が文に合うか確認しましょう。

例1 引っ越しで環境（かんきょう）が変わった。→周りの状況を表す。

例2 急な質問に戸惑う（とまどう）。→どうしてよいか迷う。

例3 本を分野ごとに整理（せいり）する。→順序よく整える。

2 音読み・訓読みは、語ごとに確かめる

同じ漢字でも、組み合わせる字や送り仮名によって読みが変わります。熟語は音読みが多く、送り仮名のある語は訓読みが多いものの、これだけで決まるわけではありません。言葉全体で読みましょう。

例1 「国語」は「こくご」、「物語」は「ものがたり」。

例2 「強調」は「きょうちょう」、「強い」は「つよい」。

例3 「行列」は「ぎょうれつ」、「行う」は「おこなう」。

3 送り仮名までが答える範囲

線が送り仮名まで引かれている場合は、その部分も含めて読みを書きます。文中で形が変わっているときは、辞書の見出しの形に戻さず、その文の形で答えます。

例1 「確かめる」全体の読みは「たしかめる」。

例2 「豊かな」全体の読みは「ゆたかな」。

例3 「比べた」全体の読みは「くらべた」。「くらべる」には戻さない。

学習ポイント 2

文脈と語のまとまりを手掛かりに、正しく読む

4 小さい仮名や、音の変化に注意する

熟語では、二つの漢字の音がつながって変化する場合があります。「っ」「ゃ」「ゅ」「ょ」の大きさや、濁点の有無も答えの一部です。声に出した音と、書いた仮名を照らし合わせましょう。

例1 出発（しゅっぱつ）→小さい「ゅ」と「っ」が入る。

例2 納得（なっとく）→「のうとく」ではなく「なっとく」。

例3 失敗（しっばい）→「しつはい」と一字ずつ読まない。

5 抽象的な語は、短い意味と一緒に覚える

目に見える物を表さない語も、考えや文章を理解する手掛かりになります。読みだけを繰り返すより、意味を短く言い換え、使える場面を思い浮かべると覚えやすくなります。

例1 意図（いと）→何かをしようとする考え。「作者の意図を考える」。

例2 根拠（こんきょ）→考えを支えるよりどころ。「根拠を示して話す」。

例3 仮定（かてい）→条件をいったん認めて考えること。「雨が降ると仮定する」。

6 聞こえ方に頼らず、辞書と表記を確認する

普段の会話では音が縮まって聞こえる語もあります。問題では標準的な読みをひらがなで書きます。迷った語は辞書で読みと意味を確かめ、間違えた箇所が分かる短いメモを残しましょう。

例1 雰囲気（ふんいき）→「ふいんき」と入れ替えない。

例2 体育（たいいく）→「いい」を省かずに書く。

例3 一生懸命（いっしょうけんめい）→小さい「っ」と長く伸ばす音を確認する。

使い方と参考資料

取り組み方・表記の基準・参照資料

A 基礎 → B 標準 → C 応用 → D 確認の順に取り組みなさい。A～Cは練習、Dは8問100点の確認テストです。

中学2年生の基礎～標準を中心に、既習事項の復習と文脈に応じた使い分けを扱います。全語が全国共通の中2新出事項という意味ではありません。

漢字のマスは9mm、罫線は10mm間隔です。解答欄の番号や表示に合わせて答えなさい。余ったマスや行は空けて構いません。

本教材では、学習用の標準的な表記を練習します。辞書に認められる異表記をすべて解答に挙げているわけではありません。言い換え・別読・送り仮名は、各問の解答と採点基準を確認してください。

設問と例文はオリジナルです。特定の入試の出題頻度を示す教材ではありません。学習範囲や語義・表記は、次の資料を参照しました。

1 文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編」

2 漢字ペディア「著しい」

3 漢字ペディア「施す」

4 漢字ペディア「率いる」

5 漢字ペディア「需要」

6 漢字ペディア「誇」

7 漢字ペディア「納得」

8 漢字ペディア「善」

資料確認日 2026年10月12日。資料名から参照ページを開けます。